



## 乾癬 (かんせん)

JR 札幌病院では、乾癬による皮疹が患者さんの生活にどんな影響をもたらしているかを理解し、最新の知見に基づいて、患者さんが希望する生活の実現を、医師と患者の共通目標として診療に取り組んでいます。



監修 JR 札幌病院  
皮膚科 科長

伊藤 圭 先生

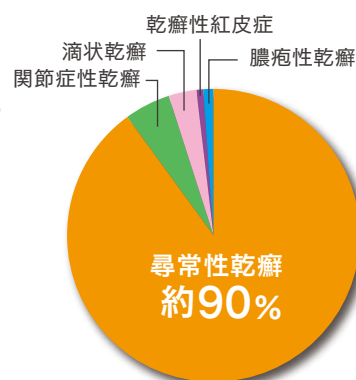
### 「乾癬」の基礎知識

#### 1. 乾癬とは

乾癬とは、皮疹を伴う炎症性の角化疾患で5つの型に分類されます。

- ・尋常性乾癬 (じんじょうせい・かんせん)
- ・滴状乾癬 (てきじょう・かんせん)
- ・乾癬性紅皮症 (かんせんせい・こうひししょう)
- ・膿疱性乾癬 (のうほうせい・かんせん)
- ・関節症性乾癬 (かんせつしょうせい・かんせん)

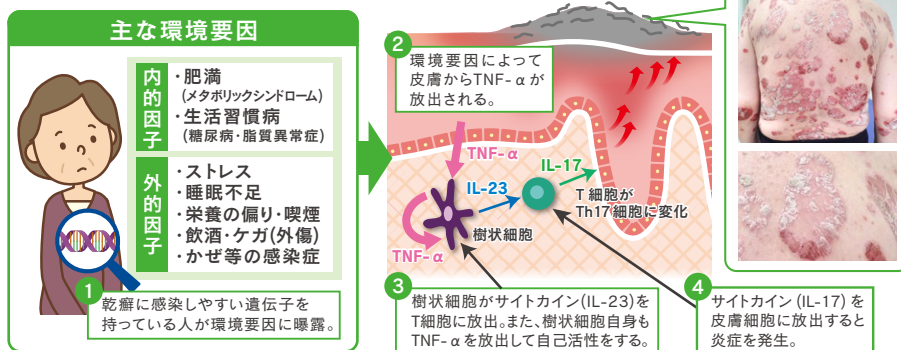
- ◎日本における乾癬の罹患数は約43万人(約300人に1人)と推計されています。
- ◎乳幼児から高齢者まで全年齢層で発症し、男女比では約2対1で男性に多い傾向にあります。
- ◎乾癬は人にうつる病気ではありません。



#### 2. 乾癬の原因

- ◎乾癬の原因については、解明されていないことが多くあります。
- ◎現状として解っていることは、乾癬に罹患しやすい遺伝的な体質がある人に、環境的要因が加わることで「免疫システム」に異常が生じ発症すると考えられています。

#### 乾癬発症・進行のメカニズム



#### 3. 乾癬の症状

じんじょうせい  
尋常性  
かんせん  
乾癬

皮膚が赤くなる「紅斑(こうはん)」、皮膚の赤い部分が盛り上がる「浸潤・肥厚」、皮疹の上にかさぶたのようなものができる「鱗屑(りんせつ)」、かさぶたがはがれ落ちる「落屑(らくせつ)」がみられます。



#### 誘因する環境要因

- ・皮膚への刺激
- ・外傷
- ・感染症
- ・糖尿病
- ・肥満
- ・薬剤
- ・ストレス
- ・喫煙等

てきじょうかんせん  
滴状乾癬

小さな水滴大の発疹が全身にみられ、小児から若年層に多い傾向にあります。

#### 誘因する環境要因

- ・かぜや扁桃腺炎等

かんせんせい  
乾癬性  
こうひししょう  
紅皮症

尋常性乾癬が全身に広がり、全身の90%以上の皮膚が赤みを帯びます。

#### 誘因する環境要因

- ・不適切な治療
- ・薬剤等

のうほうせい  
膿疱性  
かんせん  
乾癬

皮膚の発赤や、膿(うみ)がたまった膿疱の他、発熱症状もみられます。

#### 誘因する環境要因

- ・のどや鼻の感染症
- ・薬剤・妊娠等

かんせつしょうせい  
関節症性  
かんせん  
乾癬

手足の関節などに痛みや、腫れ、こわばり等の症状が見られます。

#### 誘因する環境要因

- ・感染症・外傷・肥満
- ・薬剤・ストレス・喫煙等

# JR札幌病院が取り組む「乾癬」診療

- 乾癬をはじめとした皮膚疾患は、周囲に見える病気であることから心の大きな障害となります。
- 乾癬による皮疹の症状等で悩まれている方は皮膚科を受診してください。

## 乾癬の検査・診断

乾癬の診断は、問診、視診、触診により行います。



問診 = 聞く

視診 = 見る

触診 = 触る

問診・視診・触診で診断が困難な場合

皮膚生検 皮膚組織を採取

顕微鏡で皮膚の状態を精査



「関節症性乾癬」の診断

症状が関節リウマチに酷似していることから血液検査と関節のX線撮影を行います。



## 乾癬の治療前の評価

- 乾癬と診断され、治療を始めるにあたっては、乾癬の重症度と、患者さんが乾癬による皮膚症状で日常生活のQOL(生活の質)にどのような影響があるのかを評価し治療方法を検討します。

### 皮疹の重症度の評価(医師による)

BSA (Body Surface Area)

乾癬の皮疹面積が全身の何%にあたるかを手のひら(指を含む)で測定します。

手のひら  
1枚分が  
1%に相当



PASI (Psoriasis Area and Severity Index)

全身を4つの部位に分け各部位の皮疹の「大きさ」や「程度」を調べることで、全身の重症度を点数化する方法です。



### QOLの評価(患者さんによる)

DLQI (Dermatology Life Quality Index)

患者さん自身が10項目の質問に回答し、皮膚の状態が日常生活にどれくらい影響したかを点数であらわします。

質問項目

- ①症状・感情 ②日常活動
- ③レジャー ④仕事・学校
- ⑤人間関係 ⑥治療

## 乾癬の治療

- 治療は患者さんに行った「DLQI」の結果等から(例)「皮疹により学校に行くのが不安。周囲から見える皮疹を良くしたい。」という希望があれば、その希望に応えられる最適な治療を検討し進めていきます。
- 乾癬の治療目的は、患者さんひとりひとり異なり、個別に治療を検討することが何よりも大切なことです。
- 治療は「外用療法(塗り薬)」「光線(紫外線)療法」「内服療法(飲み薬)」「生物学的製剤(注射薬)」に大別され、患者さんの病態、希望にあわせて単独または組み合わせて行います。

### 外用療法(塗り薬)

炎症を抑える  
・ステロイド外用薬

皮膚細胞が過剰に  
作られることを抑える  
・ビタミンD<sub>3</sub>外用薬

### 内服療法(飲み薬)

外用療法で効果がみられない  
場合に行います。

免疫の抑制

- ・PDE4免疫調節剤
- ・免疫抑制剤
- ・疾患修飾性抗リウマチ薬

皮膚細胞の増殖を抑制  
・レチノイド製剤

### 光線(紫外線)療法

外用療法で効果がみられない  
とき、皮疹の面積が広がった  
場合に行います。

ナローバンドUVB療法

入浴PUVA(プーバ)療法

### 生物化学製剤(注射薬)

これまでの治療で効果がみ  
られない場合に行います。

生物学的製剤は、乾癬の症  
状を引き起こすサイトカイン  
の働きを抑制することで症状  
の改善を図ります。

※当院は日本皮膚科学会の  
生物化学製剤承認施設です。

監修医師プロフィール

伊藤

圭先生

Kei Ito

皮膚科  
ホームページ



□ 学会認定等(専門医、認定資格)

- ・日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
- ・北海道大学医学部非常勤講師

□ 専門領域

- ・乾癬
- ・レーザー治療
- ・水疱症

アクセス

Google Map



JR JR 札幌病院  
JR北海道

札幌市中央区北3条東1丁目

TEL 011-208-7150